

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
国語表現	農業食品科 グリーン環境科 社会福祉科・3年	3	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 国語表現（大修館書店） <input type="checkbox"/> 副教材 国語表現 基礎練習ノート（大修館書店） <input type="checkbox"/> 問題集 現代の語彙力向上の壺（尚文出版）
-------------	---

科目の目標		
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>B 評価の規準 〔表現力を支える知識を身に付けることができた〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①書く力②話す・聞く力 ③言語運用力④情報活用力 ⑤情報収集の方法それぞれについて課題に取り組み、正確に記述しながら理解を深めている。 ・言葉によって表現するために必要な語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して語感を磨き、語彙を豊かにしている。 	<p>B 評価の規準 〔知識を生かし、自ら考えることができた〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作文やスピーチ原稿、手紙、レポート等を身に付けた知識を生かして考えようとしている。 <p>〔考えたことを表現することができた〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識を生かして自ら考えたことを書いたり、書いたものを発表したりすることができている。 <p>〔話すこと・聞くこと〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的や場に応じて情報を収集、整理して、内容を検討している。 ・相手の反応や場の状況に応じて言葉を選び、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫している。 ・仲間の話をしっかりと聞き、仲間と協力して取り組もうとする姿が見られる。 	<p>B 評価の規準 〔主体的・意欲的に学習に取り組むことができた〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「国語表現の授業を通して自己の表現力を鍛え、進路活動や将来に生かす」という目標を持ち、学習内容に興味を持って意欲的に取り組む姿が見られる。 ・課題を提出日までに不備のない状態で提出している。 ・学習や活動に積極的に取り組み、仲間との対話を通して共に表現力を高め合おうとする姿が見られる。
<p>※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。</p>		
<p>特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。</p>		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	言葉と出会う	2	・言葉と表記 ・整った文を書く
		2	・相手に応じた言葉遣い
		1	・わかりやすい文を書く ・文のつなぎ方
5	伝える、伝え合う	5	・自己紹介ゲーム ・言葉のストレッチ体操
		5	・絵や写真を見て書く ・マイニュース記事を書こう
6	自己PRと面接	3	・自分を見つめて
		3	・効果的な自己PR
		4	・将来の自分を考えよう
7		3	・志望理由を書こう ・自己推薦書や学修計画書を書く
3		・面接にチャレンジ	
8		2	・グループディスカッションをしよう
9	小論文・レポート入門	6	・小論文とは何か ・反論を想定して書く
		6	・レポートを書く ・論文を書くために
10	メディアを駆使する	6	・通信文を書き分ける
		6	・電話を使いこなす
11		6	・電子メールを活用しよう ・ネット社会との付き合い方 ・ネットを活用した情報収集
		4	・メディアと情報
12	会話・議論・発表	3	・相手や場面に応じた会話
		2	・建設的な議論の進め方
		3	・スピーチをしよう
1		3	・プレゼンテーションの工夫

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
歴史総合	農業食品科3年 グリーン環境科3年 社会福祉科3年	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 詳述歴史総合（実教出版） <input type="checkbox"/> ノート 詳述歴史総合マイノート（実教出版）
------	---

科目の目標		
<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>近現代史の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそとの日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p>	<p>近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p>	<p>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【知識】</p> <p>B 歴史的事象に関する用語を知っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要語句や重要事項を答えたり、その内容を説明したりすることができる。 <p>A 歴史的事象を概念として理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習ったことを一般化できる形に抽象化して整理したり説明することができる。 <hr/> <p>【技能】</p> <p>B 提示された資料から必要な情報を読み取ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提示された年表や地図その他の図表、史料などの資料から、必要な情報を読み取ることができる。 <p>A 適切な資料を選び、必要な情報を読み取ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年表や地図その他の図表、史料などから、適切な資料を選び、必要な情報を読み取ることができる。 	<p>【思考】</p> <p>B 習った歴史的事象を他の事柄にあてはめることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抽象化した既習事項と別の歴史的事象との構造的な共通点を見出すことができる。 <p>A もとの事柄とあてはめた事柄とを比べることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の事柄を、共通する構造で捉えて、さらなる共通点を推測したり時代や地域を含む様々な条件に起因する相違点などを挙げたりして整理することができる。 <hr/> <p>【判断】</p> <p>B 歴史的事象に関する判断基準を把握できている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その事柄に関する課題は何か、その課題に対して誰がどのような考え方を持っているかについて整理することができる。 <p>A 歴史的事象について価値判断を行うことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際起きた出来事等が、誰にとってどのような意味があったのか、それぞれの立場から説明できる。 <hr/> <p>【表現】</p> <p>B 歴史的事象について自分の考えを述べることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習った内容を比較したり価値判断を行ったりしたことをもとにして自分の考えを述べることができる。 <p>A 歴史的事象についての自分の考えを、適切な方法で表すことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章や年表、地図その他の図表などを用いて、他者に効果的に伝えることができる。 	<p>【自己調整学習・粘り強い取り組み（学習方法）】</p> <p>B 学習の振り返りを行うことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの学び方を振り返り、改善しようとすることができる。 <p>A 振り返りをもとに、学び方を継続的に改善することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの学び方を振り返り継続的に改善することができ、その成果が、「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点の成績にも表れている。 <hr/> <p>【自己調整学習・粘り強い取り組み（学習の深まり）】</p> <p>B 自分で問いを立てることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疑問に感じた点やさらに深めたい部分などを自分で見つけ、問いを立てることができる。 <p>A 自分とのつながりや現代の諸問題を意識した問いを立てることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的事象と自分や現代の諸問題とのつながりに興味を向けることができ、それらを深めるための問いを立てることができる。

学習計画

月	単元	時数	学習項目
4	歴史の扉 第1編 近代化と私たち 第1章 近代化への胎動	2 1 5	<ul style="list-style-type: none"> ・近代化への問い ・ヨーロッパの海外進出と市民社会 ・清の繁栄 ・東アジア諸国間の貿易 ・江戸時代の日本の対外政策 ・江戸時代の社会と生活
5	第2章 欧米の市民革命と国民国家の形成	7	<ul style="list-style-type: none"> ・イギリス産業革命 ・アメリカ独立革命 ・フランス革命とナポレオン ・ウィーン体制 ・19世紀のイギリスとフランス ・イタリア・ドイツの統一 ・東方問題と19世紀のロシア
6	第3章 アジアの変容と日本の近代化	7	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの発展と分裂 ・世界市場の形成 ・イスラーム世界の改革と再編 ・南アジア・東南アジアの改革と再編 ・アヘン戦争の衝撃 ・ゆらぐ幕藩体制 ・開国
7		6	<ul style="list-style-type: none"> ・幕末政局と社会変動 ・新政府の成立と諸改革 ・富国強兵と文明開化 ・近代的な国際関係と国境・領土の画定 ・自由民権運動の高まり ・立憲国家の成立
9	第4章 帝国主義の時代	8	<ul style="list-style-type: none"> ・帝国主義と世界分割 ・帝国主義期の欧米諸国 ・条約改正 ・日清戦争 ・日露戦争から韓国併合へ ・日本の産業革命と社会問題 ・アジア諸民族の独立運動・立憲運動 ・近代化と現代的な諸課題

10	第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第5章 第一次世界大戦と大衆社会	6	<ul style="list-style-type: none"> ・大衆化への問い ・緊迫する国際関係 ・第一次世界大戦 ・ロシア革命とシベリア出兵 ・大戦景気と米騒動 ・ヴェルサイユ体制とワシントン体制 ・西アジア・南アジアの民族運動
11	第6章 経済危機と第二次世界大戦	6	<ul style="list-style-type: none"> ・東アジア・東南アジアの民族運動 ・戦間期の欧米 ・ひろがる社会運動と普通選挙の実現 ・政党内閣の時代 ・世界恐慌 ・ファシズムの時代
12		4	<ul style="list-style-type: none"> ・満州事変と軍部の台頭 ・日中戦争 ・第二次世界大戦とアジア太平洋戦争 ・戦争と民衆 ・敗戦
1		6	<ul style="list-style-type: none"> ・国際連合と戦後世界 ・戦後と占領の始まり ・民主化と日本国憲法 ・冷戦の開始 ・朝鮮戦争と日本 ・国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題
2	第3編 グローバル化と私たち 第7章 冷戦と脱植民地化 第8章 多極化する世界	7	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化への問い ・冷戦対立の推移 ・植民地の独立と第三世界の出現 ・米ソ両陣営の動揺 ・日本の国際社会復帰と高度経済成長 ・石油危機と世界経済 ・緊張緩和から冷戦の終結へ
3	第9章 グローバル化と現代世界	7	<ul style="list-style-type: none"> ・地域協力の進展 ・日本の経済大国化 ・冷戦体制の終結 ・地域紛争と世界経済 ・グローバルな認識へ ・現代的な諸課題の形成と展望

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
数学A	農業食品科 3年 グリーン環境科3年	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 新高校の数学A（数研出版） <input type="checkbox"/> 問題集 ポイントノート数学A（数研出版）
-------------	---

科目の目標		
<p>(1) 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
図形の性質を系統的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。図形の性質が論理的に正しいことを的確に表現することができる。 整数に関する概念などと人間の活動の関わりについて、数学的な見方で理解することができる。	図形の見方を豊かにするとともに、図形の性質を見出し、論理的に考察することができる。 人間の活動について、整数の性質で学んできたことをもとに考察しようとする。	三角形や円など図形の性質に関心を持つとともに、それらの有用性を認識し、問題の解決に活用しようとする。 人間の活動を理解するために、数学を活用しようとする。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	20%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・できた] ・学習内容を暗記するのではなく、図形や文字などから概念として理解できる。 ・練習問題などの演習に自ら取り組み、立式から計算まで完結して解答できる。	B 評価の規準 [よく考え、意見を持ち、説明できた] ・発展的な問題にも学習した知識を組み合わせ、論理的に考察して解法を表現できる。	B 評価の規準 [粘り強さ] ・課題に計画的に真剣に取り組み、仲間と協力して考え、短期・中期の課題を解決していくことができる。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	就職試験対策・基礎学力向上対策	3	・問題演習
5	就職試験対策・基礎学力向上対策	5	・問題演習
6	就職試験対策・基礎学力向上対策	7	・問題演習
7	就職試験対策・基礎学力向上対策	8	・問題演習
8	図形の性質	2	・平面図形の基本
9	図形の性質	5	・角の二等分線と線分の比 ・三角形の外心・内心・重心 ・円周角の定理
10	図形の性質	5	・円に内接する四角形 ・円の接線 ・方べきの定理
11	数学と人間の活動	7	・約数と倍数 ・ユークリッドの互除法
12	数学と人間の活動	7	・方程式を満たす整数 ・2進法
1	数学と人間の活動	2	・分数と小数
2			
3			

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
化学基礎	3年A・G科	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 化学基礎（数研出版） <input type="checkbox"/> サポートノート 化学基礎（数研出版）
-------------	--

科目の目標		
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成すること。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての観察、実験などを行うことを通して、物質とその変化に関する基本的な概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けさせる	物質とその変化を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈などの探究の方法を習得させるとともに、報告書を作成させたり発表させたりして、科学的に探究する力を育てる。	物質とその変化に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・できた] ・【まとめと練習】の課題に自ら取り組み、内容も学習内容に沿っている。 ・授業プリントなど説明の補足や、資料の読み取りに関する自分の考えを、 <u>適切にメモに残している</u> 。	B 評価の規準 [よく考え、意見を持ち、説明できた] ・【探究の問い】や【作業】で仲間と協力して取り組み、 <u>自分や班の考えを記述できている</u> 。 ・教師から仲間との確認の指示があった場合は、 <u>仲間のサイン</u> を受けている。	B 評価の規準 [観察・実験] 様々な探究の過程を通して科学の方法を学び、 <u>化学的に探究する能力と態度</u> を育てようとするものであり、 <u>化学に対する興味や関心も、しっかりとした目的意識をもって行う観察、実験によって一層高めることができる</u> 。 [自分なりの工夫] ・授業プリントに教師の説明をメモしたり、自分なりのまとめをしたりする。 ※眠っている人、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はC評価となります。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	1章 物質の構成	1	物質の分類と性質
		2	物質と元素
5	1章 物質の構成	2	物質と元素
		2	物質の三態と熱運動
6	1章 物質の構成	1	原子の構造
		3	イオンの生成
		1	元素の周期表
7	2章 物質と化学結合	2	イオン結合とイオン結晶
		3	イオン結合からなる物質
8			
9	2章 物質と化学結合	3	共有結合と分子
		3	分子間力と分子結晶
10	2章 物質と化学結合	3	共有結合からなる物質
		3	金属結合と金属結晶
		3	金属

11	3章 物質の変化	2	原子量と分子量・式量
		2	物質質量
		2	溶液の濃度
		2	化学反応式
12	3章 物質の変化	3	酸と塩基
		3	酸と塩基の分類
		3	水素イオン濃度とpH
1	3章 物質の変化	3	中和と塩
		3	酸化と還元
2	3章 物質の変化	2	酸化剤と還元剤
3	3章 物質の変化	3	科学技術と化学

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
体育	3年 AGW 科	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 現代高等保健体育大修館書店（教科書） <input type="checkbox"/> 現代高等保健体育大修館書店（ノート）
-------------	--

科目の目標		
体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次の通り育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。	運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な課題解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 ・活動を通して技術の名称や実践、ルールやマナーを理解しようとしている。 ・課題解決法、練習法、試合法を理解しようとしている。	B 評価の規準 ・毎時の振り返りシートに反省を記入し、自己評価をしようとしている。 ・互いに助け合い、教えあい、高め合おうとしている。 ・役割を積極的に引き受け事故の責任を果たそうとしている。	B 評価の規準 ・準備運動の声出し、活動時の周囲への声掛け、準備・片付けを積極的に行おうとしている。 ・活動の目的を理解し、実践しようとしている。 ・他者と協力して周囲に配慮をしようとしている。 ・健康・安全を確保しようとしている。 ・授業に積極的に参加しようとしている。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、スキルテスト、体育理論で主に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	ダンス 体づくり運動	6 3	現代的なリズムのダンス 体ほぐし運動 体の動きを高める運動 実生活に生かす運動の計画
5	球技（選択①）	8	○ゴール型 □バスケットボール ○ネット型 □バドミントン □バレーボール ○ベースボール型 □ソフトボール
6	球技（選択①）	6	○ゴール型 □バスケットボール ○ネット型 □バドミントン
7	球技（選択②） 体育理論	6 2	□バレーボール ○ベースボール型 □ソフトボール 生涯スポーツの見方・考え方 ライフスタイルに応じたスポーツ スポーツを推進する取り組み 豊かなスポーツライフの創造
8	球技（選択②）	2	○ゴール型 □バスケットボール ○ネット型 □バドミントン □バレーボール ○ベースボール型 □ソフトボール
9	球技（選択②） 球技（選択③） 体育理論	4 4 2	○ゴール型 □バスケットボール ○ネット型 □バドミントン □バレーボール ○ベースボール型 □ソフトボール

			生涯スポーツの見方・考え方 ライフスタイルに応じたスポーツ スポーツを推進する取り組み 豊かなスポーツライフの創造
10	球技（選択③）	8	○ゴール型 □バスケットボール ○ネット型 □バドミントン □バレーボール ○ベースボール型 □ソフトボール
11	陸上競技（長距離走）	8	20分間走・4キロ走
12	陸上競技		20分間走・4キロ走
1	球技（選択④） 体育理論	6	○ゴール型 □バスケットボール ○ネット型 □バドミントン □バレーボール ○ベースボール型 □ソフトボール
		2	生涯スポーツの見方・考え方 ライフスタイルに応じたスポーツ スポーツを推進する取り組み 豊かなスポーツライフの創造

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
英語コミュニケーションⅡ	農業食品科3年 グリーン環境科3年	2	

使用教材	□VISTA English Communication II (三省堂)
-------------	---------------------------------------

科目の目標		
<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの Lesson において、新しく学習する文法事項や、これまで学習した文法事項の表現に注意しながら、内容を理解する技能を身に付けている。 ・文章の趣旨を考えながら、その内容について詳しく話して伝える技能を身に付けている。 ・文章の内容について基本的な語句や文を用いて、詳しく書いたりする技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章についての概要や要点、必要な情報を、聞き取って捉えている。 ・文章の趣旨を考えながら、その内容について詳しく話して伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。 ・文章の内容について基本的な語句や文を用いて、詳しく書いて伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章についての概要や要点、必要な情報を、主体的に聞き取って捉えようとしている。 ・理解を深めるために、文章の趣旨を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 ・文章の趣旨を考えながら、その内容について主体的に詳しく話して伝えようとしている。 ・文章の内容について基本的な語句や文を用いて、主体的に詳しく書いて伝えようとしている。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	20%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [文法理解] ・文法について理解しており、プリントやノート等に適切にまとめている。 [話すこと、書くこと] ・本文の内容について、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話したり、書いたりして伝える技能を身につけている。	B 評価の規準 [話すこと] ・本文の内容について、情報や考え、気持ち等を論理的に伝えたり、話したりしている。 [書くこと] ・本文の内容について、情報や考え、気持ち等を論理的に書いて伝えている。	B 評価の規準 [書くこと] ・本文の内容について、話し手に配慮しながら、主体的に話を聞き、聞いた内容をプリントやノート等に適切にまとめている。 [読むこと、話すこと] ・本文の内容について、聞き手に配慮しながら、主体的に書かれていることについて読んだり、話したりしている（発音練習、発表などが含まれます）。
※「知識・技能」は、定期考査や単元テストで主に判断します。 ※「思考・判断・表現」は、定期考査やスピーキングテスト等で主に判断します。		※眠っている人や私語が多く周囲の学習の妨げになる人はC評価となります。
成果や内容が特に顕著な場合は A評価 とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	オリエンテーション	1	・学習の進め方の説明 ・シラバス及び Can-Do リストの提示
5	LESSON 7 Martial Art on Tatami	6	Section1 ～ 3 ・競技かるたについての対話から、概要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。 ・関係代名詞の非制限用法／関係代名詞 what の使い方を確認する。
		1	Lesson まとめ ・競技かるたについて読んだ内容について、書いて要点をまとめたり、聞いて確認したりする。
		2	ALT との活動
6	LESSON 8 Biologging	6	Section1 ～ 3 ・バイオロギングについての発表から、概

7			要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。 ・分詞構文／強調構文の使い方を確認する。
		1	Lesson まとめ ・バイオロギングについての発表を読んだ内容について、書いて要点をまとめたり、聞いて確認したりする。
		3	ALT との活動
		2	スピーキングテスト
8 9	ENJOY READING! 1 ・ The Open Window	6	・ナトル氏と登場人物のやり取りで進む物語から、概要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。
		1	Lesson まとめ ・ナトル氏と登場人物のやり取りで進む物語について、続きを想像しながら、考えを書いたり、それを話して伝えたりする。
		2	ALT との活動
10	ENJOY READING! 2 The Christmas Truce	6	・第一次世界大戦におけるクリスマス休戦の文章から、概要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。
		1	Lesson まとめ ・文章について、クリスマス休戦が私たちに伝えるメッセージを考えながら、考えを書いたり、それを話して伝えたりする。
		2	ALT との活動
11	ENJOY READING! 3 My Dream	6	・宇宙飛行士の野口聡一さんの夢に関する文章から、概要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。
		1	Lesson まとめ ・文章に関連して、子どもの頃の将来の夢について、書いたり話して伝えたりする。
		2	ALT との活動
		2	スピーキングテスト
12 1	ENJOY READING! 4 ・ The Restaurant of Many Orders	6	・『注文の多い料理店』の物語から、概要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。
		1	Lesson まとめ ・『注文の多い料理店』の物語について、感想を、書いたり、話して伝えたりする。

		1	ALT との活動
--	--	---	----------

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
課題研究	グリーン環境科・3年	4	

使用教材	<input type="checkbox"/> 共通様式プリント <input type="checkbox"/> 配布プリント
------	--

科目の目標		
農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	農業に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として解決策を探求し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
30%	40%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・身についた] ・農業の各分野について体系的・系統的に理解することができた。 ・関連する技術を身に付けることができた。	B 評価の規準 [PDCA学習ができた・発表や卒論ができた] ・農業に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として解決策を探求することができた。 ・科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養うことができた。	B 評価の規準 [積極的に行動できた・外部の意見を取り入れた] ・課題を解決する力の向上を目指して自ら学ぶことができた。 ・農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことができた。
※定期考査は実施しない。 ※記録ファイル・まとめレポート・製品・発表会・卒論等を主に、3観点を評価する。		
顕著な成果・内容の場合は A 評価とし、成果・内容が不十分な場合は C 評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4			
	・授業アンケート、導入	8	・プロジェクト学習の手順を理解することができる。
5	・地域や自分の周辺の環境課題	8	・地域の課題や周辺環境の課題を考えることができる。
	・課題設定	8	・課題を発見して設定することができる。
6	・研究開始	16	
	・計画 ・調査 木材に関すること 農業土木に関すること ・実施 樹木、木工製品づくり、草原施工実習（実験）など ・データ入力・整理・記録など		・研究計画を立案することができる ・研究対象の木材や農業土木に関わる調査をすることができる。 ・適切に木材や草原、施工に関する実習ができる。 ・客観的にわかるように記録ができる。 ・データから表やグラフの作成ができる。 ・研究成果を発表することができる。



	アンケート調査など		・主体性や実行力を発揮できる。
7		14	
8		4	
9		14	
10		14	
	↓		
11	・まとめ	14	・結果の分析や研究のまとめができる。
	・木工室・製材室等の片付け ・実験室（土木実験棟）の片付け		・課題研究の片付けができる。
12	・課題研究発表に向けての原稿、 スライド作成	14	・課題研究成果について原稿やスライドに まとめることができる。
1	・課題研究発表会	6	・課題研究成果を聴衆の前で発表すること ができる。
	・卒業論文作成		・課題研究成果を卒業論文にまとめること ができる。 ・プロジェクト学習は今後の社会生活でも 活用できることを理解できる。
2			
3			

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
総合実習	グリーン環境科 3年	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/>
------	---

科目の目標		
農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野の改善を図る実践的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

<p>B 評価の規準</p> <p>[わかった・できた]</p> <p>・【まとめ】の課題に自ら取り組み、内容も学習内容に沿っている。</p> <p>・説明の補足や、資料の読み取りに関する自分の考えを、<u>適切にメモに残している。</u></p>	<p>B 評価の規準</p> <p>[よく考え、意見を持ち、説明できた]</p> <p>・【はじめの問い】や【作業】で仲間と協力して取り組み、<u>自分や班の考えを記述できている。</u></p>	<p>B 評価の規準</p> <p>[粘り強さ]</p> <p>・学習活動に真剣に取り組み、仲間と協力して考え、提案や発表ができる。教師のスタンプがある。</p> <p>[自分なりの工夫]</p> <p>・教師の説明をメモしたり、自分なりのまとめをしたりするなど、独自の記述が3か所以上ある。マーカーやアンダーラインも工夫している。</p>
<p>※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。</p>		<p>※眠っている人、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はC評価となります。</p>
<p>特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。</p>		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	木工製品について		木工製品作りの基礎
	木工室の機械操作		木工室の機械操作
5	刈払い機の管理		刈り払い機のメンテナンス
6	農業鑑定競技会の意味		農業鑑定競技会の意義
	農業鑑定競技会の学習		農業鑑定競技会の学習
7	トンボの構成、道具の使い方		トンボの墨付け、道具の使用・手入れ
8			
9	トンボの制作		トンボの墨付け、加工
	夏野菜の管理等		トマト・ナス・ピーマンの管理法
10	トンボの制作		トンボの墨付け、加工
	夏野菜の収穫		トマト・ナス・ピーマンの収穫
11	トンボの制作		トンボの墨付け、加工
	露地野菜（秋野菜）の管理等		ダイコン、ハクサイの管理法
12	トンボの制作		トンボの墨付け、加工
	越冬野菜の特徴と管理等		タマネギ・ニンニクの管理

1	学習のまとめ、振り返り		卒論制作
2			
3			

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
農業と情報	グリーン環境科・3	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 農業と情報（実教出版） <input type="checkbox"/> 補助教材 -新編-情報Ⅰ（東京書籍）
------	---

科目の目標		
農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業に関する情報を主体的に活用するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
農業の各分野における情報と情報技術を活用した問題の発見・解決等の方法や、情報化の進展が社会の中で果たす役割や影響、情報に関する法律・規則やマナー、個人が果たす役割や責任等について、学校での実習や産業現場での体験を通し、その情報や情報技術を目的や条件に合わせて効果的に使いこなすことができる知識と技術を体系的・系統的に理解し身につけるようにする。	進展する情報社会の特徴や、多様で大量の情報と情報技術が産業社会や人間に与える影響、農業への先進技術や革新技術の活用方法などに関して考察したり、環境への配慮や法令遵守などの職業人に求められる倫理観をもち、科学的な根拠などに基づいて効果的に説明したり、創造的に解決する力を養う。	農業情報を活用した事例を基に、環境保全や農林業の持続的発展に果たす意義や役割に関心をもちながら、その仕組みや効果について体系的・系統的に理解する大切さについて自覚を深め、また各種の情報の価値を適切に判断し、情報通信ネットワークを活用した情報の収集、情報手段を用いた調査・分析・統合・加工・発信ができる技術の習得に対して、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・できた] ・【まとめ】の課題に自ら取り組み、内容も学習内容に沿っている。 ・説明の補足や、資料の読み取りに関する自分の考えを、 <u>適切にメモに残している。</u>	B 評価の規準 [よく考え、意見を持ち、説明できた] ・【はじめの問い】や【作業】で仲間と協力して取り組み、 <u>自分や班の考えを記述できている。</u>	B 評価の規準 [粘り強さ] ・学習活動に真剣に取り組み、仲間と協力して考え、提案や発表ができる。教師のスタンプがある。 [自分なりの工夫] ・教師の説明をメモしたり、自分なりのまとめをしたりするなど、独自の記述が3か所以上ある。マーカーやアンダーラインも工夫している。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。		※眠っている人、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はC評価となります。
特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4 5 6	スマート農業の目指す将来	4	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の課題と将来 ・データと精密農業 ・データとスマート農業 ・スマート農業の目標と仕組み
	システム開発と設計	4	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活と情報システム ・システム設計
	プログラムの設計	8	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムの設計
	計測と制御	2	<ul style="list-style-type: none"> ・計測と制御
7 8	リモートセンシングとGIS	4	<ul style="list-style-type: none"> ・リモートセンシング ・地理情報システム
	人工知能	4	<ul style="list-style-type: none"> ・人工知能と農業
9 10 11	農業情報の収集と分析	6	<ul style="list-style-type: none"> ・農業と情報 ・外部情報の収集と分析 ・内部情報の収集と分析 ・外部情報と内部情報を利用した分析
	農業生産や経営情報の分析と活用	6	<ul style="list-style-type: none"> ・農業生産と情報の活用

			<ul style="list-style-type: none"> ・生産過程における情報の活用 ・農業経営における情報の活用 ・出荷・販売における情報の活用 ・管理システム
	環境に関する情報の分析と活用	8	<ul style="list-style-type: none"> ・環境と情報 ・森林と情報 ・農業土木と情報
	食品や地域資源に関する情報の分析と活用	4	<ul style="list-style-type: none"> ・食品製造と情報の活用 ・食品の安全管理システム ・地域資源と情報の活用
12	農業学習とプロジェクト学習	8	<ul style="list-style-type: none"> ・農業学習と情報処理 ・プロジェクト学習と情報処理
1	プロジェクト学習と情報処理	2	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト発表

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
森林科学	グリーン環境科 3年	2	

使用教材	□実教出版「森林科学」
------	-------------

科目の目標		
農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、森林の構造や機能並びに保全技術などを科学的に捉えるために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
森林科学について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	森林科学に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	森林を科学的に捉えるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

<p>B 評価の規準</p> <p>[わかった・できた]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【まとめ】の課題に自ら取り組み、内容も学習内容に沿っている。 ・説明の補足や、資料の読み取りに関する自分の考えを、<u>適切にメモに残している。</u> 	<p>B 評価の規準</p> <p>[よく考え、意見を持ち、説明できた]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【はじめの問い】や【作業】で仲間と協力して取り組み、<u>自分や班の考えを記述できている。</u> 	<p>B 評価の規準</p> <p>[粘り強さ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動に真剣に取り組み、仲間と協力して考え、提案や発表ができる。教師のスタンプがある。 <p>[自分なりの工夫]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の説明をメモしたり、自分なりのまとめをしたりするなど、独自の記述が3か所以上ある。マーカーやアンダーラインも工夫している。
<p>※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。</p>		<p>※眠っている人、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はC評価となります。</p>
<p>特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。</p>		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	治山治水・治山の重要性		治山の歴史
5	山地の荒廃		山地の荒廃と浸食のメカニズム
6	水の循環 溪流工事		樹木を介してからの水の循環
7	山腹工事 地すべり防止工事		山腹の浸食や荒廃、その防止に必要な工事 地すべり防止に必要な工事
8			
9	林道と作業道・役割		林道や作業道の役割
10	林道計画と設計		林道の構造
11	林道の施工と保守管理		林道の作り方と維持するために必要な管理
12	林木の伐採		

	伐採をめぐる問題・伐採計画		世界と我が国における森林の破壊と保護の歴史
1	作業計画		森林の機能の維持と安全な作業
2			
3			

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
森林経営	グリーン環境科 3年	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 実教出版「森林経営」
-------------	-------------------------------------

科目の目標		
<p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、森林経営に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
森林経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	森林経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	森林経営について持続的な経営発展へ向けて自ら学び、農業の振興や社会貢献について主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

<p>B 評価の規準 [わかった・できた]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【まとめ】の課題に自ら取り組み、内容も学習内容に沿っている。 ・説明の補足や、資料の読み取りに関する自分の考えを、<u>適切にメモに残している。</u> 	<p>B 評価の規準 [よく考え、意見を持ち、説明できた]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【はじめの問い】や【作業】で仲間と協力して取り組み、<u>自分や班の考えを記述できている。</u> 	<p>B 評価の規準 [粘り強さ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動に真剣に取り組み、仲間と協力して考え、提案や発表ができる。教師のスタンプがある。 ・[自分なりの工夫] ・教師の説明をメモしたり、自分なりのまとめをしたりするなど、独自の記述が3か所以上ある。マーカーやアンダーラインも工夫している。
<p>※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。</p>		<p>※眠っている人、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はC評価となります。</p>
<p>特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。</p>		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	森林経営の計画と管理		森林経営に関する計画の特徴
	森林経営の目標と組織		日本の有名林業地
5	森林施業		森林施業の基礎
	樹齢・樹種・更新法による区分		
6	利用目的・機能による区分		森林の重視すべき機能とその目的
7	所有や法制度による区分		森林認証制度
8			
9	森林の利用		公益的機能
	森林経営情報の活用		地図情報、森林簿
10	木材の流通		
	国民経済と木材商業 木材の流通と市場		国産材利用の変遷 国産材と外材の流通
11	木材貿易		森林認証制度

12	森林経営と森林政策		
	我が国の森林政策 林業金融と森林保険		江戸、明治期、大正期、昭和期の林業施策 林業金融と森林保険の意義
1	森林関係法規		森林林業基本法、森林法、森林組合法
2			
3			

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
林産物利用	グリーン環境科 3年	2	

使用教材	□実教出版「林産物利用」
-------------	--------------

科目の目標		
<p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、林産物の利用に必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
林産物の利用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	林産物の利用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	林産物が多様な利用につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

<p>B 評価の規準</p> <p>[わかった・できた]</p> <p>・【まとめ】の課題に自ら取り組み、内容も学習内容に沿っている。</p> <p>・説明の補足や、資料の読み取りに関する自分の考えを、<u>適切にメモに残している。</u></p>	<p>B 評価の規準</p> <p>[よく考え、意見を持ち、説明できた]</p> <p>・【はじめの問い】や【作業】で仲間と協力して取り組み、<u>自分や班の考えを記述できている。</u></p>	<p>B 評価の規準</p> <p>[粘り強さ]</p> <p>・学習活動に真剣に取り組み、仲間と協力して考え、提案や発表ができる。教師のスタンプがある。</p> <p>[自分なりの工夫]</p> <p>・教師の説明をメモしたり、自分なりのまとめをしたりするなど、独自の記述が3か所以上ある。マーカーやアンダーラインも工夫している。</p>
<p>※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。</p>		<p>※眠っている人、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はC評価となります。</p>
<p>特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。</p>		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	製材		製材、カンナがけ、木取り、墨付け
5	木材の乾燥と保存		木材乾燥の基礎
6	木材の工作		木材加工機械の操作
7	木材の工作		製材、カンナがけ、木取り、墨付け
8	塗装		木材加工機械の操作
9	木材の工作		ほぞ穴の調整、組み上げ
10	改良木材の製造		製材、カンナがけ、木取り、墨付け
11	改良木材の製造		木材の特性と用途
12	キノコの生産と加工		墨付け、ほぞ穴の調整、組み上げ
	木材パルプと和紙 木炭		鋸 製材作業
			墨付け、ほぞ穴の調整、組み上げ、販売
			キノコの栽培

			製材、カンナがけ
1	卒業論文・振り返り		
2			
3			

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
農業土木設計	グリーン環境科・3年	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 農業土木設計（実教出版） <input type="checkbox"/>
------	---

科目の目標		
<p>(1) 農業土木設計について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 農業土木設計に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 農業土木設計について、農業土木事業が自然環境との調和へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
農業土木設計に関するプロジェクト学習を通して、農業農村の発展や国土保全・環境創造を図り、自然環境との調和に配慮した農業土木事業の計画及び基礎的で汎用性の高い農業土木施設の設計に必要な知識と技術を体系的・系統的に理解し、身に付けるようにする。	各種農業土木事業の計画及び農業土木施設の設計における課題を発見し、農業土木事業が果たす社会的な意義と役割を踏まえるとともに、環境への配慮や法令遵守などの職業人としての倫理観をもって、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	農業土木設計の学習を通して、農業土木事業が農業・農村の発展や国土保全・環境創造を図るという社会的な役割を担っていることを理解し、農業土木事業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・できた] ・【まとめ】の課題に自ら取り組み、内容も学習内容に沿っている。 ・説明の補足や、資料の読み取りに関する自分の考えを、 <u>適切にメモに残している。</u>	B 評価の規準 [よく考え、意見を持ち、説明できた] ・【はじめの問い】や【作業】で仲間と協力して取り組み、 <u>自分や班の考えを記述できている。</u>	B 評価の規準 [粘り強さ] ・学習活動に真剣に取り組み、仲間と協力して考え、提案や発表ができる。教師のスタンプがある。 [自分なりの工夫] ・教師の説明をメモしたり、自分なりのまとめをしたりするなど、独自の記述が3か所以上ある。マーカーやアンダーラインも工夫している。 ※眠っている人、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はC評価となります。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	・設計の基礎	2	・力と釣り合い ・平面図形の性質 ・材料の性質と強さ
	・はり	2	・静定ばりの計算と設計 ・不静定ばりの基礎
5	・柱	3	・短柱と長柱 ・短柱の計算・長柱の計算
	・トラス	3	・トラスの構造と特徴 ・内的静定と不静定 ・トラスの応用解法
6	・ラーメン	7	・ラーメンの構造と形式
			・ラーメンの構造と用途
			・ラーメンの解法
			・曲げモーメント図

7	・コンクリート構造	7	・コンクリートの特性
			・コンクリートの設計強度
8	・コンクリート構造	2	・コンクリートの設計強度
9	・鉄筋コンクリートの構造	8	・鉄筋コンクリートの特性
			・限界状態設計法
			・その他の鉄筋コンクリート構造物
			・鉄筋の一般構造細目
10	・鋼構造	8	・鋼構造と鋼材
			・鋼部材の接合
			・鋼げた
11	・基礎工	8	・基礎工のあらまし
			・基礎工の設計
			・擁壁
12	・擁壁	4	・擁壁のあらまし
	・水利構造物		4
1	・道路	2	・道路のあらまし
			・農道の計画・設計
2			
3			

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
農業土木施工	グリーン環境科・3年	4	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 農業土木施工 (東京電機大学出版) <input type="checkbox"/>
-------------	--

科目の目標		
<p>(1) 農業土木施工について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 農業土木施工に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 農業土木施工について、自然環境や安全に配慮し、合理的な施工・管理ができるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
農業土木施工に関するプロジェクト学習を通して、自然環境との調和や安全に配慮した施工計画や仮設計画を立案し、合理的な施工及び管理を実践することができる知識と技術を体系的・系統的に理解し、身に付けるようにする。	地域の農業土木施設の施工及び管理にあたっての課題を発見し、農業土木施工が果たす社会的な意義と役割を踏まえるとともに、環境への配慮や法令遵守などの職業人としての倫理観をもって、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する力を養う。	農業土木施工の学習を通して、農業土木施工が農業・農村の発展や国土保全・環境創造などの社会的な役割を担っていることを理解し、自然環境の保全に配慮し、安全かつ合理的な施工管理の知識と技術を活用し、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・できた] ・【まとめ】の課題に自ら取り組み、内容も学習内容に沿っている。 ・説明の補足や、資料の読み取りに関する自分の考えを、 <u>適切にメモに残している。</u>	B 評価の規準 [よく考え、意見を持ち、説明できた] ・【はじめの問い】や【作業】で仲間と協力して取り組み、 <u>自分や班の考えを記述できている。</u>	B 評価の規準 [粘り強さ] ・学習活動に真剣に取り組み、仲間と協力して考え、提案や発表ができる。教師のスタンプがある。 [自分なりの工夫] ・教師の説明をメモしたり、自分なりのまとめをしたりするなど、独自の記述が3か所以上ある。マーカーやアンダーラインも工夫している。 ※眠っている人、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はC評価となります。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	農村計画関連の法規	4	<ul style="list-style-type: none"> ・農地法 ・土地改良法
5	環境保全関連の法規	7	<ul style="list-style-type: none"> ・環境基本法 ・水質汚濁防止法 ・騒音規制法 ・振動規制法 ・廃棄物の処理及び清掃に関すること
6	農業土木材料	7	<ul style="list-style-type: none"> ・土木材料の種類と規格、木材 ・土と岩石・石材・金属 ・セメント・コンクリート及びその製品 ・アスファルト・その他
7	土工	6	<ul style="list-style-type: none"> ・土の基本的な性質 ・土工計画の基本、土工の準備 ・盛土工 ・法面保護

			<ul style="list-style-type: none"> ・浚渫・埋立 ・軟弱地盤対策工法
8	コンクリート工	2	<ul style="list-style-type: none"> ・コンクリートの性質
9	コンクリート工	8	<ul style="list-style-type: none"> ・コンクリートの性質、配合、施工
10	基礎工	8	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎工の種類と特徴 ・基礎地盤の支持力、根掘り工 ・直接基礎工、杭基礎工 ・ケーソン基礎工
11	農地整備の施工	4	<ul style="list-style-type: none"> ・農地整備の意義、ほ場整備施工 ・土層改良
	水路工	4	<ul style="list-style-type: none"> ・開水路工 ・管水路（パイプライン）工 ・環境との調和に配慮した水路の整備
12	道路工	6	<ul style="list-style-type: none"> ・アスファルト舗装 ・コンクリート舗装　その他の舗装 ・道路付帯設備
	植栽工	2	<ul style="list-style-type: none"> ・植栽工事の計画・設計 ・樹木の植栽、法面保護
1	いろいろな施工技術	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ダム工、ため池整備工、トンネルの施工、橋梁の施工 ・土木構造物の補修、補強 ・農地の保全、防災 ・災害復旧工事
	農業土木施工の実践	1	<ul style="list-style-type: none"> ・農業土木工事の実践例 ・農業農村整備事業の建設工事における情報化施工技術
2			
3			

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
水循環	グリーン環境科・3年	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 水循環 (実教出版) <input type="checkbox"/>
------	---

科目の目標		
<p>(1) 水循環について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。</p> <p>(2) 水循環に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 水循環について、環境保や農業の持続的な発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
水循環に関するプロジェクト学習を通して、健全な水循環系を構築し、農業・農村の発展や国土保全・環境創造に水を有効かつ継続的に活用するための知識と技術を体系的・系統的に理解し、身に付けるようにする。	水循環に関する課題を発見し、水循環が果たす社会的な意義と役割を踏まえるとともに、環境への配慮や法令遵守などの職業人としての倫理観をもって、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	水循環の学習を通して地球上を循環する水が農業・農村の発展や国土保全・環境創造という社会的な役割を担っていることを理解し、水を有効かつ継続的に活用し、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・できた] ・【まとめ】の課題に自ら取り組み、内容も学習内容に沿っている。 ・説明の補足や、資料の読み取りに関する自分の考えを、 <u>適切にメモに残している。</u>	B 評価の規準 [よく考え、意見を持ち、説明できた] ・【はじめの問い】や【作業】で仲間と協力して取り組み、 <u>自分や班の考えを記述できている。</u>	B 評価の規準 [粘り強さ] ・学習活動に真剣に取り組み、仲間と協力して考え、提案や発表ができる。教師のスタンプがある。 [自分なりの工夫] ・教師の説明をメモしたり、自分なりのまとめをしたりするなど、独自の記述が3か所以上ある。マーカーやアンダーラインも工夫している。 ※眠っている人、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はC評価となります。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	・水循環に関するプロジェクト学習の意義	2	・「水循環」を学ぶにあたって
		2	・水循環とプロジェクト学習
	・プロジェクト学習の進め方	2	・プロジェクト学習の課題設定、計画立案実施、まとめ
5	・地球史と水	4	・太陽系形成と地球の水
	・水循環とは	4	・水循環と水収支 ・地下水
6	・水と森林・河川・農地	4	・流域の中での森林・河川・農地の流出特性
	・水と生態系	4	・水と生態系、水と水田生態系 ・水と森林生態系
7	・水と人間の歴史	8	・水と世界の文明、
			・水と日本の歴史
8	・水の有効利用と水質保全	2	・下水道、農業集落排水
9	・水と農地の土壌	4	・農地の土壌の構造と特徴

	・水と農業生物の栽培	2	・水と農業生産
	・水と森林の土壌	2	・森林における水の循環 ・森林土壌の多面的機能
10	・利水と治水	3	・利水・治水
	・かんがいと排水	3	・かんがい、排水
11	・水利施設	8	・ダム、頭首工、揚水機場・用水路・排水路・排水機場
12	・農業用水の多面的機能	4	・農業用水の多面的機能
		4	・農業用水の果たす役割
1	・水資源の保全と活用の取り組み	1	・水資源の保全と活用の取り組み事例
	・水資源の保全と活用実践	1	・有料農業地帯を築いた明治用水
2			
3			

令和7年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
地域資源活用	グリーン環境科・3	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 地域資源活用（実教出版） <input type="checkbox"/>
------	---

科目の目標		
農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、地域資源の活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
農林業・農山村の特色や地域資源の有用性について、農山村と都市の取組と課題を調べる学習を通して、農林業・農山村の実態や地域社会の在り方、そこで新たな仕事を産み出す起業活動などに関連する、対人サービスのマナー、環境インタープリターの技法、イベントプログラムの企画、サービス利用者の安全管理などの知識と技術を体系的・系統的に理解し、身に付けるようにする。	農林業・農山村の特色を活かした生活体験を提供する活動などを行い、それらを推進している社会的起業家の事例を通して、地域資源の活用に関する課題を発見し、地域の振興について、農業や農業関連産業に携わるものとして環境への配慮や法令遵守などの職業人としての倫理観をもち、科学的な根拠などに基づいて合理的かつ創造的に解決する力を養う。	地域振興の担い手として、地域と連携し、地域資源を活用したグリーンツーリズムや商品開発、市民農園運営などの地域活性化活動を体験・実践することにより、地域資源の活用について新たな価値の創造に寄与できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献などに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・できた] ・【まとめ】の課題に自ら取り組み、内容も学習内容に沿っている。 ・説明の補足や、資料の読み取りに関する自分の考えを、 <u>適切にメモに残している。</u>	B 評価の規準 [よく考え、意見を持ち、説明できた] ・【はじめの問い】や【作業】で仲間と協力して取り組み、 <u>自分や班の考えを記述できている。</u>	B 評価の規準 [粘り強さ] ・学習活動に真剣に取り組み、仲間と協力して考え、提案や発表ができる。教師のスタンプがある。 [自分なりの工夫] ・教師の説明をメモしたり、自分なりのまとめをしたりするなど、独自の記述が3か所以上ある。マーカーやアンダーラインも工夫している。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。		※眠っている人、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はC評価となります。
特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4 5	「地域資源活用」とプロジェクト学習	12	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源活用に関するプロジェクト学習の意義 ・プロジェクト学習のすすめ方
6 7	農山村社会の変化と地域振興	6	<ul style="list-style-type: none"> ・農山村社会の現状と変化 ・地域活性化に向けた施策・取組
	地域資源活用の意義と役割	6	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の魅力と価値 ・地域振興に向けた施策と取組
8 9	地域資源活用の意義と役割	6	<ul style="list-style-type: none"> ・異業種連携と商品価値の創造 ・地域資源活用の実践と課題・情報の活用と発信
10	地域資源の価値と活用	12	<ul style="list-style-type: none"> ・観光への活用 ・商品開発への活用 ・サービス業への活用 ・教育・福祉への活用
11 12	地域と連携した活動	12	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源のマーケティングとブランドづくり ・地域資源を活用したサービス ・農業のユニバーサルデザイン化 ・地域振興活動と評価

1	地域資源活用の実践	6	<ul style="list-style-type: none">・地域資源活用の企画と実践・高校生による実践例
---	-----------	---	--